

## 課程博士の学位授与申請に係わる審査報告書

学 籍 番 号                      11DM1401 (経営学研究科経営学研究専攻)

氏       名 (本籍)                      加藤 好雄 (日本)

学 位 の 種 類                      博士 (経営学)

報 告 番 号                      甲 第 86 号

学位授与年月日                      平成28年3月20日

学位授与の要件                      学位規則第4条第1項該当

論 文 題 目                      「大都市圏におけるビジネスホテルの立地に関する研究」

審 査 委 員	主査	教 授	神頭 広好
	副査	教 授	玉置 光司
	副査	教 授	蔣 湧
	副査	教 授	角本 伸晃

2016年 (平成28年) 2月13日  
愛知大学大学院経営学研究科

## 審査の結果の要旨

加藤さんの論文の目的は、大都市圏のビジネスホテルの立地構造とビジネスホテルの立地要因を明らかにすることである。一般に、ホテルの業種に関わらずホテルの立地に関する先行研究は少なく、本論文では経済地理学および都市経済学的観点から集積の経済に照準をあて、地代理論を用いて大都市圏におけるホテル立地モデルの構築を試みている。ここでは審査委員から、副都心の立地については、付け値地代との関わりで地代および立地を説明した方が分かり易いという指摘がなされた。つぎに、そこで構築されたホテル立地モデルの適合性を見るために、東京大都市圏都心部を対象にして、宿泊料金の分布および都心からの距離帯別のホテル立地について、GISを使って説明している。そこでは、新宿および池袋などは東京駅周辺とビジネスホテルの立地分布にほぼ同じ傾向が見られることが示されている。ただし、審査委員からは路線別(方向別)の分析がないために、地価との関係や交通の利便性に関する分析があればとの指摘があった。つぎに、ビジネスホテル・チェーンに照準をあてて、これら立地の特徴をサービス品質の観点から調査している。さらに、東京都、大阪市および名古屋市のビジネス・チェーンに対してヘッドニック・アプローチを用いて、宿泊料金の要因分析を試みている。なお、審査委員からは、限界効用逓減を仮定した限界インプリシット価格を導く段階での対数線形の予算制約式によって推計された係数だけしか表示されておらず、そこでの乖離率については、確率分布などからの適合性についてはどうかなどが質問された。また、これを用いた参考文献についても問われた。

本審査委員会では、ビジネスホテルの立地に関わる先行研究が少ないこと、将来が期待される内容であることを踏まえ、上記の指摘された点において、可能な限りの加筆修正を施した上で、博士(経営学)の学位に資する論文であることが確認された。

以 上